

< 2021年度事業報告書 >

【概況】

本年度も新型コロナウイルスは、当協会各本部の活動に多大な影響を及ぼしました。しかしながら、昨年度に比べ事業をある程度展開できましたのも、ひとえに加盟団体の皆様、東京都・江戸川区はじめ関係各区および地域の皆様、公益社団法人日本ボート協会・関東漕艇学生連盟ほかボート関係各位の皆様、そして当協会顧問・委員の皆様のご理解ご協力があったものであり、ここにあらためて皆様に御礼申し上げます。

さて、本年度を総括しますと、全体としては大きく2点あります。

- ・with コロナの第一歩として無観客ながら競漕会を開催できたうえ、大会開催時においては、選手役員関係者等から感染者を出すことなく無事に大会を運営できた点
- ・緊急事態宣言下においても、国や都の指針を鑑みながら事業実施の適正規模や安全対策を検討し、またボート教室や大会開催に向け様々な工夫をし事業を最低限、実施出来た点

これらは、まだまだ本年度掲げた「ニューノーマル対応」とは言えない部分もありますが、各本部において、一定の活動が出来たことは来年度の更なる活動再開への大きな足掛かりになると思料しております。

一方、当協会の取組むべき課題については新型コロナウイルスを理由にせず、来年度からは確実に課題解決に向けて、加盟団体の皆様のご協力をいただきながら一丸となって推進したいと思います。よろしく願いいたします。

各本部の事業報告は以下の通りです。

1. 競技開催事業

別表1の通り競技会を開催した。

2. 普及事業

- ・一昨年2月に発生した新型コロナウイルスの感染は、今年になっても収まらず、6月20日の第5回東日本マスターズ競漕大会はコロナ禍にも関わらず、男子エイト15クルー出漕と盛況裡に実施した。

一方、10月16日、17日に行われた第21回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会並びに第11回小学生交流レガッタの両レガッタとも感染防止対策を施しながら無観客で実施した。

- ・第21回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会は女子付クオード5クルー、男子エイト19クルー、第11回小学生交流レガッタは7クルーが出漕し、老若男女の熱戦が繰り広げられ、戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。詳細は別表2のとおりである。
- ・ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来より多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田の都内5拠点を中心にボート教室、各水域のローカルレガッタ、マシシロイイベントを展開してきた。今年も新型コロナウイルス禍で多くの拠点で中止を余儀なくされたが、一部において感染防止対策を施し実施した。詳細は別表3のとおりである。
- ・今年も中学生の全国大会は3大会の内、2大会は新型コロナの為中止となり、唯一7月中旬の全国中学生選手権競漕大会は、コロナの蔓延防止重点地域からの出漕辞退要請があり、東京、横浜等からのエントリークルーは残念ながら出漕を辞退した。このレースを辞退した中学生の中から、先の10月16日、17日に行われた第44回東日本新人選手権競漕大会に併設された第17回スカル選手権競漕大会に大学生等とともに出漕した。

- ・東京オリンピック、パラリンピックが1年延期後、無観客ながら実施された海の森水上競技場は、普及として利用する予定だが、利用条件等の詳細が未定な為、不透明な部分が残されている。

3. 強化事業

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染状況悪化に伴う緊急事態宣言発出の影響で高等学校の部活動が制限されたため、国体東京都代表選考は、少年種別については水上でのレースを行わず5月にエルゴメーター2000m記録による選考を行った一方、成年種別については6月に予選会を実施した。関東ブロック大会（栃木・谷中湖）は行われたが、三重国体が中止となった。東京都代表クルーのブロック大会結果は、別表4の通りであった。
- ・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表6の通りであった。
- ・国体強化で予定していた国体強化遠征・強化試合も中止となった。
- ・国体の強化事業として、12月19・25・26日に国体少年の練習会を戸田コースにて実施した。練習会では東京都の実業団チーム（明治安田生命、NTT東日本）と一緒に水上練習やエルゴ指導を受けるとともに東京オリンピック代表の荒川選手の講演を聴き、少年の選手にとって良い経験をすることができた。
- ・トップアスリート事業12期生については専門プログラムを実施。
- ・公益財団法人東京都体育協会の受託事業として第12期トップアスリート発掘事業（女子3名）の中学三年生の指導を5月から12月まで行った。月2回程度の練習会と11月の埼玉県ボート協会主催のクリスマスチャレンジレガッタに出場した。

4. 審判事業

- ・2021年12月1日現在A級6名、B級9名、C級95名(▲12名) 参与1名(▲1)の111名が所属している。2021年度は以下の通り各大会に派遣した。

(1) 東京都ボート協会主催レースへの当協会審判従事者数

3月13日	第11回東すみだレガッタ	10名
4月3日～4日	第69回お花見レガッタ	30名(栃木8茨城1名受入)
6月5日	第76回国民体育大会成年都予選会	13名(静岡1名受入)
6月13日	第69回全国高等学校選手権都予選会	12名
6月20日	第6回東日本夏季競漕大会	13名
10月10日	令和3年度関東高校選抜予選都予選	12名
10月16日～17日	第44回東日本新人選手権	16名

(2) 関東ボート連盟主催レースへの当協会審判派遣者数

6月5日～6日	関東高校大会(相模湖)	3名
7月10日～11日	第76回国体関東ブロック大会	10名
10月30日～31日	令和3年度関東高校選抜	4名

(3) 日本ボート協会主催レースへの当協会審判派遣者数

4月26日～27日	アジアジュニア選考会(戸田)	8名
5月2日～7日	アジアオセアニア大陸予選(海の森)	16名
6月25日～27日	全日本社会人選手権(戸田)	9名
7月23日～30日	オリンピック(海の森)	7名
8月16日～19日	全国高等学校選手権(福井)	1名

8月27日～29日	パラリンピック(海の森)	6名
9月26日	学連タイムトライアル(戸田)	14名
10月27日	全日本インカレタイムトライアル	4名
10月28日～31日	全日本大学兼全日本選手権(戸田)	8名

(4)当協会所属団体対校戦への当協会審判派遣者数

4月11日	日立明対校戦(戸田)	13名
4月29日	グリーンレガッタ(戸田)	16名
6月6日	早中明タイムトライアル(戸田)	11名
8月4日	三大学対抗戦(戸田)	13名

(5)他県主催レースへの当協会審判派遣者数

西日本選手権(大阪)1名 朝日レガッタ(滋賀)1名
宮ヶ瀬レガッタ(神奈川)1名 高校選抜近畿予選(大阪)1名
関西学生秋季選手権(大阪)5名

- ・ 緊急事態宣言のはざまに開かれた大会に、こまめに審判を派遣することによって、延べ258名の審判員に審判機会を作ることができた。しかし、感染の問題から未活動審判への積極的な誘いをかけることができなかつたため、内実は特定の審判員に偏つたものとなつた。
- ・ お花見レガッタには30名もの審判が集まつたが、その後感染拡大の影響から、以降のレースでは審判員確保が難しく、各レースぎりぎりの人数での業務となつた。
- ・ オリンピック、パラリンピックは資格と定員の関係で審判員として参加したのは上述の人数になつてはいるが、当協会所属の審判員が多数ボランティアとして参加し大会を支えた。
- ・ 12名のC級審判員が更新を辞退した。未活動審判員が主で影響はなかつたが、コロナ感染拡大による審判員試験の開催見送りにより補充できなかつた。1月以降C級試験実施予定。
- ・ 4月より審判の制帽が紺に変更される。(地方大会は1年間は現状の白帽子も可。ただし全員が同じ色にそろえなければならない)

5. 事業報告の付属明細書

2021年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。